

令和5年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000370		
法人名	医療法人 弘善会		
事業所名	グループホーム あろんていあ住吉		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市住吉区南住吉1-4-34		
自己評価作成日	令和6年2月20日	評価結果市町村受理日	令和6年4月11日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaisokkensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2792000370-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和6年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院であり、24時間医療機関との連携は充実しています。認知症になっても安心して自分らしく暮らしていける様に支援を行っています。設備には特殊浴槽を設置し、看取りへの支援も医療と連携して行っています。認知症ケアに関しても認知症介護指導者を中心にケアの在り方を共有・実践し、入居者様が安心して暮らしていける様に努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年開設7周年を迎える事業所は、4階建てビルの2階～4階にある3ユニットのグループホームです。1階は同法人の小規模多機能の事業所となっており、連携が取れています。JR・地下鉄・南海電車、各駅から徒歩圏内にあり、幹線道路から1つ奥まった通りで便利で静かな環境です。医療法人が母体であるため、医療との連携がスムーズに行われることが強みの1つです。異動により3年目を迎える管理者は、法人の理念を基に「楽しみを1日でも長く」、利用者・職員と共に「今日を頑張ろう」という思いに繋がるホーム独自の新たな理念を考案しています。身体拘束廃止委員会・家族地域交流委員会など、委員会活動・勉強会も活発に行っています。コロナ等の感染症の収束を待ち望み、家族との外出や地域との交流を深めていけるよう尽力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 [bsuu [[
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「コミュニケーションを大切に。笑顔ある自分らしい生活を護る」人と人との繋がりを大切に実践につなげている	理念「コミュニケーションを大切に。笑顔ある自分らしい生活を護る」を各フロアに掲示し、実践に繋がっています。また年間スローガンとして《「積極的に挨拶を行う」地域住民やご家族等、関わる全ての人々に我々から積極的に挨拶を行う》を掲げています。地域密着型の特徴を活かした支援が出来るよう、管理者が中心となり職員の思いを盛り込み、新たな事業所理念を作成する予定です。	建物の2階から4階がグループホームです。理念やスローガンの共有のためには、家族・来訪者等の目にも入るようフロアだけでなくエレベーター内やホールにも掲示されてはいかげでしょう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りにも参加し、近所の方々との挨拶も積極的に行っている	地域住民の一員として自治会に加入しています。周辺は生活環境にも恵まれているので、外食等にも出掛けていました。コロナ禍の影響が残る現在は、地域の花壇の水やりや近隣の散歩、コンビニ等への買い物に向いたりしています。「家族地域交流委員会」もあり、今後、徐々に活動を再開し地域交流に取り組んでいく予定です。近くの小学校との交流も検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で行っている初任者研修のパンフレットなどを配布し、介護・認知症介護の情報を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に運営推進会議を行い、自施設の報告などを挙げ、会議参加メンバーから意見を頂くようにしている	2か月に1回、町会長・民生委員・包括支援センター職員の参加で運営推進会議を開催しています。会議内容は事業所の状況(利用者数・職員研修・事故発生・感染症の発生・苦情内容・行事等・事業所の課題・看取りの件)を細かく報告して、参加者の意見を聞くことができています。昨年11月の会議では「利用者の散歩も機会が増え、気候の変化を感じる場面や日常の刺激が増えた」との報告もできています。	利用者の日常についても内容が細かく報告されています。メンバー構成に利用者・家族の参加があれば、ホームへの理解がより深まるのではないのでしょうか。会議室がないとのことで、ユニットのフロア利用も一案とされてはいかがでしょうか。ご利用者にも会議参加を促しやすくなります。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や書類などで困った事、生活保護など、相談しながら協力関係を築けるように努力している	市の担当者とは日頃から書類について相談したり、生活保護受給者の入居依頼などで協力関係を築いています。また事故発生で医療的処置が必要な状況が発生した場合にも市へ届けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアからエレベーターが職員から目が届きにくい構造になっており、安全面から玄関・エレベーターにはロックがかかっている。外に出たい希望時には散歩やユニット間の交流を行い、気分転換を図っている	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催しています。高齢者の権利擁護や虐待、身体拘束に関する研修また勉強会を定期的実施しています。各ユニットにはコンプライアンスの徹底を促す掲示もしています。4点柵使用の事例がありましたが、その後、医師・家族・職員にて話し合い、昨年4月に解除しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議で虐待について周知し、スタッフの言動が虐待に当たらないか話し合い、虐待防止に努めている。各階にはコンプライアンスルールを掲示している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人制度を利用している入居者様の関係者と情報を定期的にお伝えし、円滑に活用できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書と契約書にそって説明を行い、ご理解を頂いた上で契約を行っている。疑問点があれば、随時説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各入居者様の状態を電話で随時報告し、家族様の意向に添えられるように努力している	コロナ禍の影響で、現在も面会に関しては時間や人数制限をしていますが、利用者と居室で過ごすことができ、家族から意見を聞く機会も増えてきています。利用者の状態を適宜電話で連絡したり、3カ月に1回は手紙で伝えるなどして、家族の意見や要望を引き出せるようにも努めています。職員が発信している写真や動画のネットサービス“インスタグラム”は家族に好評で、様子が見れて嬉しいなどの意見がよせられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時、スタッフの意見や提案に耳を傾けて、運営や環境に反映できるように努めている	各ユニット会議は3カ月に1回実施していません。コロナ禍以降、全体会議はできていませんが、リーダー会議を定期的に行い、情報共有をしています。管理者は年2回個別面談を行い、職員の要望や意見を聞くようにしています。昨年より電子カルテを導入して、情報を細かく入力し、朝・夕の申し送りにも活用しています。電子カルテには職員のストレスチェック表もあります。表情がいつもと違う場合など声を掛け話を聞くようにしています。利用者への言葉かけの内容を共有することで協力が得られ、負担を軽くできた事例があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標シートを設定し、個人の評価を行い給与に反映できる環境を設定している。各スタッフの負担が大きにならない様にスタッフ同士の声掛けができる環境作りにも努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的な研修を行い、知識・情報を共有するように努めている。まずは行ってみる姿勢を第一と考え、自主性の向上。気付きや工夫の情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護ネットワークに参加し相互間の情報共有を行っている。事業所内で対応困難事例や相談を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の担当者と連絡を取り合い、情報を引き継ぎ、スタッフ間で共有している。環境面でも以前と暮らし方が変わらない様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて家族様から生活歴や好みなども聞き、ご本人が安心して暮らしていけるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者さまとの関係性を大切にしながら、本人本位の暮らしが出来る様に支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フロアで行う事は基本的に入居者様と一緒に行うように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の状況を伝え、家族間の繋がりが切れないようにご家族の立場を尊重し、協力頂ける事はお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策の中で、外出機会は減り、馴染みの場所への外出は出来ていない	コロナ禍で外出の機会が制限される中、携帯電話の所持や電話の取次など、可能な限り繋がりが途切れないよう支援しています。利用者の状況を些細なことでも取りこぼさず家族に伝えたり、通院時には職員と一緒に家族に同行してもらうなど、関わる機会を持てるよう努めています。誕生日に花が贈られてきたり、手紙を送ってくる家族もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様得意分野が違うため、役割を分けたりしてお互いが気持ちよく過ごせる環境を整える事を優先している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りなどで契約終了後も家族様の精神的な相談や支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録や毎月のモニタリングや日々の会話などから、本人の意向を読み取るように努めている	利用者の思いや意向は、日々の関わりの中での会話や表情から読み取るように努めています。得られた情報は、朝夕の申し送りや会議時に職員間で共有しています。意思疎通の困難な利用者は、これまでの生活習慣から想像したり、家族から情報を得るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の暮らしも個人ファイルにまとめ、スタッフがいつでも見れるように整えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人1人1人の過ごし方を把握し、残存機能を活かした暮らしができるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画にはフロアスタッフの意見をまとめ作業療法士の意見を加え、より良く暮らせるように支援している	介護計画の見直しは3カ月に1回行っています。状況に変化があった場合は随時見直します。計画作成担当者は、利用者の思い(したいこと・やりたいこと)を何より大切にして、介護する側の都合に寄らない計画の作成に努めています。モニタリングでは、サービス実施状況を細かい段階で評価し、次の計画に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録として日々の生活状況や気付いたことを記録しており、スタッフ出勤時には目を通して把握する様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外の柔軟なサービスは提供できていなく、施設内で完結している事が多い		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の花壇の水やりなども行い、他者との関わりの中で豊かな暮らしができる様に推進している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が中心だが、入居者様のニーズや家族様の希望から近隣の医療機関を受診し、家族・かかりつけ医にも報告を行っている	母体は医療法人で医療・介護制度が充実しています。月2回、利用者は協力医の訪問診療を受けていますが、心身の状況に応じて柔軟に対応しています。週1回、訪問看護や歯科訪問もあります。かかりつけの眼科の受診は状況に応じて職員が通院介助を行い、受診結果は家族等や協力医(主治医)に電話で伝えています。夜間や緊急時の対応は協力医療機関で適切な医療が受けられる体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の訪問看護師「に気付いた事や健康状態を伝え、適切な医療が受けれるようにアドバイスを頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院の為、24時間対応の体制がとれている。病院の相談員とも連携をとり、早期の退院受け入れに努めている。地域の病院関係者とも密に連絡をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は担当医から時期の見極め、話し合いの場を設けている。ご家族様にも事業所で出来る事を説明し、方向性を全スタッフで共有できるように努めている	日々、利用者の状態変化を把握し、看取りケアが必要になった場合は、家族等の意向や希望を再確認し、医師・看護師・職員・家族等がチームとなり、利用者が安心して過ごせるように支援しています。昨年は5名の方をホームで看取りました。「最後のお別れ」もできるように家族等の面会や宿泊にも配慮しています。故人の「日々の暮らし」の写真などを整理して送り、家族からは感謝の言葉や手紙が寄せられて、職員の励みになっています。看取り後は振り返りミーティングを行い、更なるステップアップに繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の医療への緊急連絡網は全スタッフ周知している。喀痰研修など医療についての研修参加も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを掲出し、迅速な対応を心がけている。年2回の避難訓練実施により、具体的な行動を実施できるように努めている	ホームの実情に即した防災対策マニュアルを作成しています。年2回の避難訓練は日中・夜間を想定し、消防署の指導のもと利用者参加で実施しています。3日分の備蓄品は保管庫にて、管理者が点検・管理しています。今後は備蓄一式を保管できる防災保管庫を屋外に設置する予定です。作成した簡易版BCPシートを今後訓練にも活かしていきます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、信頼関係を構築できるように心がけて対応している	各種の職員研修(接遇、認知症ケア、看取り等)を実施しています。また新任研修の一環、OJP(日常業務の中での指導)は指導する側の自己覚知や伝達力を高め、やりがいにも繋がっています。日々、利用者一人ひとりの誇りを尊重し、さりげないケアや言葉かけに心掛けています。また、排泄や入浴時はプライバシーを損ねない声かけや対応に配慮しています。日頃から職員間で話し合える職場環境にあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重している。すぐに対応できない事もあるが、スタッフで共有し、実現できるように努力している。自己決定が難しい方は選択できるように声をかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側のローカルルールは出来るだけ無くすように努力しているが、決め事には入居者様の意向を入れ、暮らしの支援を優先できるように努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみは大切にしている。また着る服は自己決定し、散髪は訪問美容で希望に添う様に行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	業者から食材が届き、施設で調理を行っています。得意な方には調理から手伝って頂き、準備・後片付けなどもスタッフと一緒にいう事を基本としている	アイランドキッチンからの調理の音や匂いは利用者の五感を刺激します。主食のご飯と味噌汁はホームで調理し、副食はクックチル食を温め提供しています。月1回の「食事レクリエーション」はユニット別に職員と一緒に調理しています。春の「ちらし寿司」、夏の「冷汁」、秋の「クリームシチュー」、冬の「鍋料理」等、食の季節を味わっています。旬の食材を見て触ることで、五感を刺激し会話が増えたというエピソードもあります。また、嗜好品を用意したり、晩酌を楽しんだりする利用者もいます。洗い物や食器拭きも利用者が進んで行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは業者の栄養士が対応しています。水分量・食事摂取量は記録に残し、好きな飲み物も提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは大切にしています。希望者は訪問歯科を利用し、義歯の調整や衛生管理を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として声かけ・誘導を行っている。記録に残し、それぞれに合った支援ができる様に工夫している	職員は個々の排泄チェック表を活用し、その人なりの支援と方法を考えてトイレ排泄を実践、同性介助にも配慮しています。夜間、利用者1名はオムツを利用しています。各フロアにトイレは3か所あり、車椅子対応のトイレも備えています。車椅子対応のトイレ表示は車椅子利用者の目線に掲示し、トイレと浴室の脱衣場は中扉の開閉で移動できる動線になっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂って頂いたり、運動・体操なども行って頂ける時間や環境を作っています。またヤクルトなど希望など聞きながら提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週2回としているが、希望に添えるように努力している。入浴時間帯も本人の意向に添って声かけしている。個人浴槽で難しい方は機械浴での対応を行っている	週2回の入浴は利用者の状況に応じて柔軟に対応し、希望があれば同性介助も可能です。お湯はその都度入れ替え、利用者の好みの入浴剤で入浴を楽しんでいます。個浴はその人なりの入浴方法やこだわりを配慮し、満足できるように支援しています。入浴後は皮膚の状態に応じた保湿クリームで肌の乾燥を予防しています。安全面に留意し、利用者の身体状況によっては2人介助で支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて居室で休んで頂いている。頑張りすぎて休憩が摂れない方にはスタッフから声をかけ休息の時間を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	計画作成担当者が医療関係者と連携をとり、状況を報告している。また薬剤管理を薬局が入り、服薬の相談を随時行い、入居者様に合った服薬方法を支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの中で役割を個人的に持って頂き、充実を感じて頂ける様に支援している。また、息がつかまらないように散歩などで外に出かける事を随時行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日は難しいが、事前にスタッフ・入居者様で相談し、外出され食べたいものを食べられるように支援している	感染対策の緩和に伴い、天候の良い日は近隣の散歩や買物を実施しています。散歩の機会が増えることで、気分転換や五感刺激も得られています。久しぶりに近隣の量販店(衣服等)で買物を終え、喜びとともに心地良い疲労感を口にしたというエピソードもあります。感染状況に応じて花見外出も検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が個人的に金銭管理されていないが、事務所にて預り金として保管している。預り金で個人の好きな物や必要な物を購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の個人の携帯で家族様と連絡を取られる方もいるが、本人の希望があれば施設から家族様に連絡しご本人と繋げている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングで過ごされる事が多い。音や匂い・光など過度な刺激がない様に心がけている。また廊下や居室には四季が感じられるように飾りをつけている	リビング兼食堂は開放感があり、掃除が行き届いています。ユニットごとに季節感のある利用者の作品や行事の写真が飾られ、日々の生活を伝えています。数人で寛げるソファやテーブル等の設えも工夫し、それぞれのユニットに合った生活環境になっています。感染予防対策は毎日のルーティンで徹底し、空気清浄機を設置、安心・安全な生活に留意しています。エレベーター横には2脚の椅子を置き、待ち人への配慮をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の場所・ゆっくりできる場所を分け、入居者様が自由に自身の居場所を決めている様に環境を整えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人が使い慣れた物や家具を持ち込んで頂けるように勧めている。またご本人が使いやすい様にベッドの位置や家具の位置を家族様とも相談し配置を考えている	居室はベッド、クローゼット、エアコンを備えています。利用者・家族等と相談し、馴染みのある筆筒やテーブル、テレビ等を持ち込み、居心地良い部屋になっています。床にカーペットを敷き、座椅子で胡坐をかいて寛ぐ利用者の姿もあり、これまでの生活様式を変えないように配慮しています。表札には、季節感のある職員手作りの作品を飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には大きな手作りの表札をつけ、判断できるように工夫している。また時間がわかりにくい方にはテーブル上にも時計を置き、今の状況を自身で判断できるように工夫している		